

鹿児島城跡・山城ガイド



「鹿児島城下絵図屏風」(玉里島津家資料) 鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵

鹿児島城(別名：鶴丸城)は、慶長6(1601)年頃に建てられた島津氏の居城で、江戸時代の薩摩藩の政治・文化の中心でした。山城部分(城山)と麓の屋形(現在の黎明館あたり)からなる城で、総面積は約85ha(東京ドーム約18個分)もありました。

山城への出入口は、北の岩崎口、南の大手口、西の新照院口の3か所あり、南北は外堀で守られていました。

屋形は、城山を背にして建てられ、屋形を中心に、周囲には各種の役所や家臣の屋敷が配置され、海側へ向かって城下町が築かれました。琉球との交易拠点となる湊には築地を整備しました。

「VR鹿児島城」では、在りし日の鹿児島城の姿を、スマートフォンやタブレットを使ってVR(仮想現実)やAR(拡張現実)などで学び楽しむことができます。



iOS版



Android版

鹿児島城とは

鹿児島城は「山城」

江戸時代、幕府の使者に対して、薩摩藩のことを説明した「監察使答問抄(かんさつしとうもんしょう)」という史料には、鹿児島城は「山城」であると書かれています。

城山の大部分は、約29,000年前、始良カルデラからの噴出物から出来たシラス台地です。シラス台地は、傾斜が垂直に近ければ近いほど安定するため、急で険しい斜面が出来やすいことが特徴です。急斜面は登るのが大変であるため、城を攻める側は、急斜面ではない場所から攻めます。城山は急斜面ではない場所が少ないため、守る側は相手がどこから攻めるかが分かり、守りやすくなります。

さらに、シラス台地の「加工しやすい」という特徴を利用して、城山には空堀や土塁も築かれています。城作りにはもってこいの地形だったと言えます。



「城山」鹿児島城

の一部分から城山公園へ

眺められていた場所から眺める場所へ

城山が城として使われていた時代は、警護上の理由で庶民の入山は厳しく制限されており、城山は麓から眺められる対象でした。

その後、渡辺千秋県令(現在の県知事)の政策により、「城山公園」として、明治18(1885)年、今の探勝園のあたりに開設されました。城山公園の範囲は徐々に広がっていき、明治40(1907)年の皇太子(後の大正天皇)の鹿児島への行啓にあわせて、今の城山展望台が整備されたと考えられています。明治43(1910)年からは散策道が整備されはじめ、昭和6(1931)年には、自動車道*の整備とそれに伴う反対運動が起こるなど、それぞれの時代の保存と開発の結果により、今の姿になっています。*裏面マップの「城山遊歩道」にあたります。

現在は、城山からの眺めを楽しみに多くの方が訪れ、鹿児島市有数の観光地、市民の憩いの場となっています。城として眺められていた場所から、眺めを楽しむ場所へと移り変わっていったのです。

明治40年頃に撮影された城山からの景色 「鹿児島県写真帖より鹿児島市全景(城山より見たる)」 鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵

天然記念物

城山

城山が城として使われていた時代は庶民が森の中に入ることは許されておらず、人の手が入らなかったことから、現在でも、原生林に近い姿の照葉樹林などが残っています。

また、クスノキなどの常緑広葉樹やシダ類など500種あまりの植物が自生しているほか、環境省のレッドリストなどに掲載されているウスギモクセイなどの希少種も確認されており、「城山」は国指定の天然記念物にもなっています。(昭和6年指定)

現在、公園として親しまれているここ城山に刻まれた「山城 鹿児島城」の歴史を、ぜひ自然や景色を楽しみながら見つけてみてください。



シロヤマゼンマイ



シロヤマシダ



スダジイ



クスノキ

本リーフレットは、文化庁の国庫補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費」を活用して開催した「鹿児島城跡 山城シンポジウム(令和6年9月)」の発表内容をもとに作成したものです。

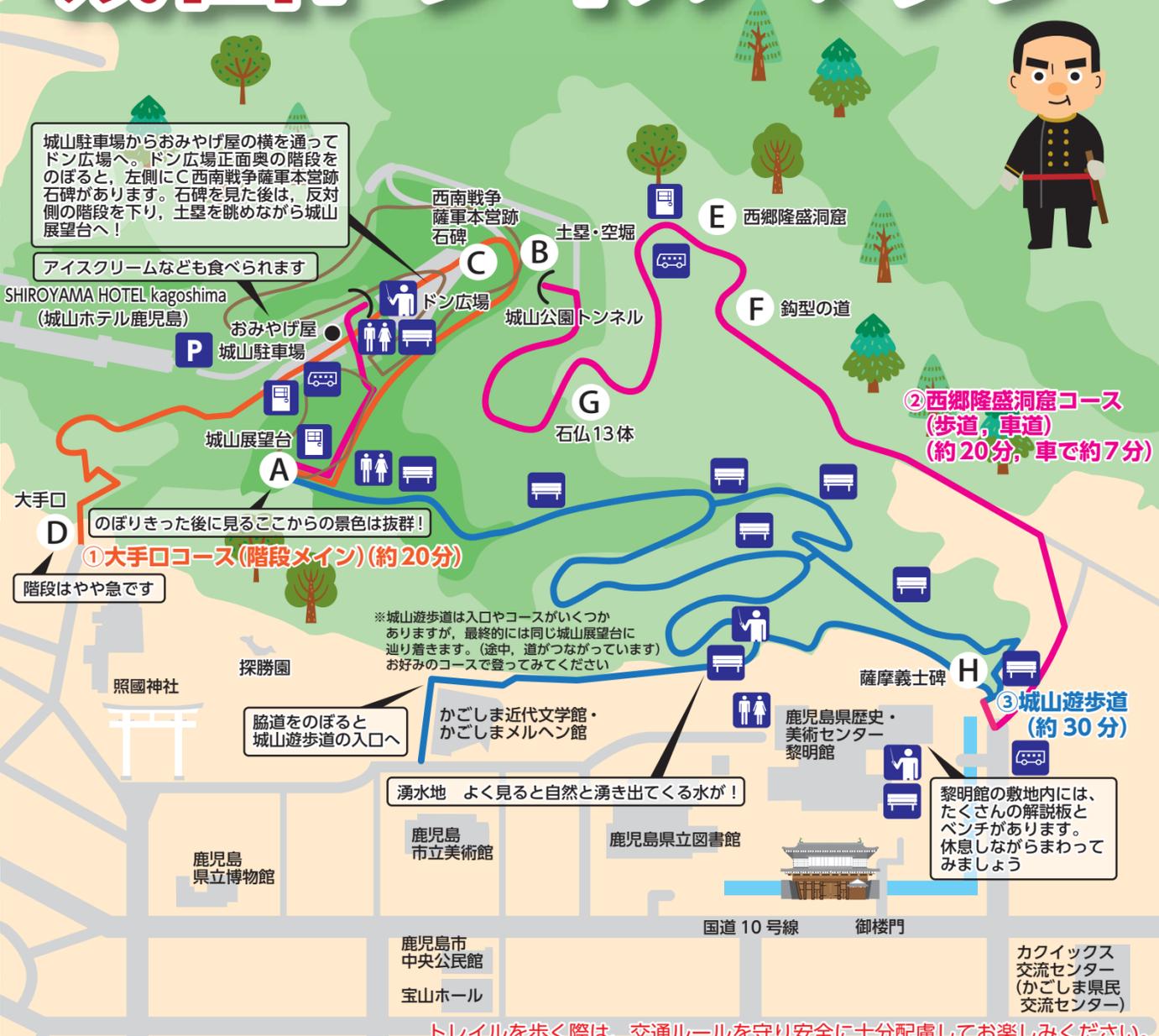


鹿児島県観光・文化スポーツ部 文化振興課

2025年3月刊行

自然と歴史の散策路

城山トレイルマップ



A 城山展望台



桜島をはじめ錦江湾や鹿児島市街地を一望できます。圧巻の景色です！
 夜景が美しいことでも有名で、周遊バス「カゴシマシティビュー」には夜景コースもあります。
 *駐車場あり(37台分)
 *夜景コースは毎週土曜日(12月と1月は毎週金・土曜日)に運行(15分間停車)

B 土塁・空堀



現在の城山展望台の駐車場の回りは、こもりとした森に囲まれています。この森のように見えるのは、実は、土塁(盛土による防壁)なのです。この土塁は、長さ約500m、高さは最大で約14mもあります。
 江戸時代の城山への登城口の全てが、この土塁につながっており、ここを突破できないと山城の中心部分(本丸)には行けなくなっていました。
 さらに、発掘調査の結果、この土塁の回りには空堀(水の張られていない堀)が巡っていたことがわかっています。
 ※地図内の——が土塁・空堀の範囲です。

C 西南戦争 薩軍本営跡石碑



城山駐車場を囲む土塁の上に、一つの石碑が建っています。これは、明治10(1877)年の西南戦争で、各地を転戦して鹿児島に戻ってきた西郷軍が、城山の戦いの際に、ここに本営を置いたということを示すものです。
 この場所は、江戸時代の鹿児島城の山城部分の中心でした。西郷隆盛はそのことを知っていて、本営に選んだのかもしれない。

D 大手口



大手口とは、城の正面入口のことを指します。元々、鹿児島城の本丸、二之丸が城山にあったため、この場所が大手口になりましたが、本丸が麓(現在の黎明館)に移った後もそのまま大手口とされていました。
 発掘調査の結果、建物の跡や陶磁器などの生活道具、瓦などが出土しています。また、現在も脇に残っている排水溝は、一部改修していますが、ほとんどが江戸時代のものになります。
 現在、大手口から展望台へつながっているこの階段の道は、直線的ではなく、ジグザグになっていますが、これは、江戸時代の名残です。上りは少しきついですが、お城を攻めているような気分で登れます！

E 西郷隆盛洞窟



西南戦争において鹿児島城下を出発した西郷軍は、九州各地で転戦したのち、9月1日、再び城下に戻り、城山に立て籠もりました。最初はドン広場近くの土塁の上を本営*にしていましたが、戦況が悪化すると、この洞窟周辺で桐野利秋をはじめ私学校の幹部たちとともに、銃弾に倒れるまでの最期の5日間を過ごしました。
 *関連：C 西南戦争薩軍本営跡石碑

F 鈎型の道



西郷洞窟の手前では、道が大きく曲がっています。これは、防御の工夫のひとつとして、城山山頂にむかってまっすぐ進めなくするために、江戸時代に設けられたものが、そのまま現在の道として残っているのです。

G 石仏13体



弘法大師(空海)の徳を慕う鹿児島市内の観音講の人々が、四国88ヶ所巡礼になぞらえ、大師の尊像88体を城山などの史跡や古刹跡(由緒ある古い寺の跡)に建立しました。城山には、1928年につくられた88体の石仏のうち一部が安置されています。(台座と石仏からなる完全体が13体、石仏のみが16体、計29体)
 実は、城山展望台近くであと1体見ることができると探してみてください！

H 薩摩義士碑



宝暦3(1753)年、江戸幕府に課せられた木曾三川の治水工事(宝暦治水)で指揮をとった薩摩藩家老平田鞠負をはじめとする、命をかけて犠牲となった薩摩藩士を弔う史跡です。宝暦治水がなかった縁で、今でも岐阜県の大垣市や海津市、羽島市とは交流が行われています。

展望台までの3つの散策コース

- 1 大手口コース D 大手口→C 西南戦争薩軍本営跡石碑→B 土塁・空堀→A 城山展望台
- 2 西郷隆盛洞窟コース H 薩摩義士碑→F 鈎型の道→E 西郷隆盛洞窟→G 石仏13体→A 城山展望台
 ※歩道は狭めですので、車にご注意ください
- 3 城山遊歩道 立派なクスノキなどを見ることができます。自然を楽しみながら城山展望台へ！

解説板
 ベンチ
 トイレ
 バス停
 自販機
 駐車場

トレイルを歩く際は、交通ルールを守り安全に十分配慮してお楽しみください。